

## はじめに

三年前、これまで書いたエッセイの中から三十点を選んで、「ひこばえ」のタイトルで電子本を出版した。当時、電子本はハイテクを駆使した、新しいスタイルの本として脚光を浴びつつあった。

しかし、翌年にアップル社からタブレット型端末「アイ・パッド」なるものが新発売され、これを使えば何時でも何処でも市販の電子書籍が簡単に読めるようになった。

それに引きかえ、電子本「ひこばえ」はCDを媒体とするため、パソコンに装着しなければ読めないという、致命的なハンディがある。

一方、従来型の書籍は、本棚から取り出して気軽にページをめくり、気になる個所に傍線を引いたり、コメントを書き入れたりして読書を自由に楽しむことができる。一瞬にして消え去る電子書籍に飽き足りないものを感じる読者も少なくないだろう。

そこで、「ひこばえ」第二作を従来型の単行本として出版することにした。ここでは、新たに書いたエッセイ約二十点を紹介し、第一作に掲載したものと過去に書いたものからも数点を選んで書き加え、時系列ではなく、全体として自分史的なストーリーを加味したものになるように編集した。

なお、「ひこばえ」とは木を切った跡の切り株から新しく出てきた新芽のこと。このエッセイ集が第二の人生で小さな「ひこばえ」となってくれることが私の願いである。

